

『乙女花』



野村 陽子（旧姓福島）

植物細密画家
（ 高校23回 ）山梨県北杜市在住

入学して間もない頃、教室の窓から見える桜は新入生を歓迎するように美しく咲いていました。漢文の授業中、風に舞い散る花びらに思わず見とれ、先生の話は耳に入ってきてません。突然の質問に何も答えられず恥ずかしい思いをしました。

新しい校庭を造るため造成すると、畑の中から土器のカケラが出土して、にわかには人気の高まった考古学クラブへ 興味しんしんで入部しました。土器のカケラは 部屋の隅に追いやられ「今日は苺摘みに出かけましょう」と先輩に誘われ、学校を抜け出して苺畑へ出かけました。太陽の光で暖まった実の甘酸っぱい味は 今でも忘れられません。

美術の授業で描く題材を忘れて、中庭にあった一枝を拝借しました。
それは 実はずきませんでした、信州では見かけることの少ない枇杷の木でした。

こんな風に 私の女子高生時代の思い出は、草花にまつわるものが 多いように思います。

卒業して40年。
久しぶりに訪れた母校は、新しい校舎に建て替えられていたものの、思い出の中に生き続けている桜やツツジ、銀杏並木は健在でした。

あの頃は何気なく見ていたものが、頭の隅っこにはちゃんと記憶されていて、こんな些細な出来事が 今に繋がっているように感じられて仕方ありません。

※野村陽子さんの作品は、かんでんぱぱミュージアム「野村陽子植物細密画館」で鑑賞できます。